

ハート・オブ・ゴールド



vol.12

2004年12月24日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市西辛川872-2
T&F 086-284-9700
メール:hearts05@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



アンコールワット国際ハーフマラソン＆ウォーキング 青少年スポーツ祭、盛大に開かれる

12.1 ~ 5

今年もアンコールワット国際ハーフマラソンの季節がやってきた。1996年よりカンボジア地雷被害者の救済をテーマにかけスタートした本大会。今年で9回目を迎える。多くの人々に支えられ、年を重ねるごとに広がり、今年の参加者は、20カ国約1700人にのぼった。また、大会に前後して、ウォーキングや青少年スポーツ祭など多様な取り組みが繰り広げられた。



マラソン大会での義足参加選手



コンポンチュナム市での青少年スポーツ祭



ウォーキング大会



バトミントン渡辺専門家、大活躍



地元の子どもたちとの交流

アンコールワット国際ハーフマラソン 2004 大会結果

- 2004年度大会参加者数 1,646名 (前年1,498名 前年比+148名)
- ウォーキングを含む参加者数 1,831名 (前年1,676名 前年比+155名)
- 参加国 20カ国 (前年19カ国)
 - アジア (6) カンボジア、日本、韓国、フィリピン、シンガポール、タイ
 - オセアニア(2) オーストラリア、ニュージーランド
 - ヨーロッパ(10) ベルギー、チェコスロバキア、デンマーク、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、スウェーデン、スイス、アイルランド
 - アメリカ(1) USA
 - アフリカ(1) 南アフリカ
- 主催 カンボジア陸上競技連盟(KAAF)、カンボジアオリンピック委員会(NOCC)
- 運営 アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会
- 後援 カンボジア王国政府、シェムリアップ州、観光省、文化芸術省、教育青年スポーツ省、アプサラ・オーソリティ、在日本国カンボディア王国大使館、在カンボジア日本大使館、在大阪カンボディア王国名誉領事館、国際機関日本アセアンセンター、他多数
- 特別協賛 三共株式会社
- 協賛 吉備システム株式会社
- 協力 (株)アシックス、岡山理科大学専門学校、他多数

国際ハーフマラソンへのメッセージ

ハート・オブ・ゴールド 代表 有森 裕子

今年で第9回をむかえたアンコールワット国際ハーフマラソン大会を、無事開催することができることを心からうれしく思うとともに、この大会に対する多くのご理解、ご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

そして、カンボジアのランナーの方々を中心とする、世界中より参加してくださったランナーの皆様、ようこそアンコールワット国際ハーフマラソン大会へお越しくださいました。

1996年より、対人地雷被害者をスポーツの力で救済しようと立ち上げたこの大会も、参加してくださる皆様のおかげで、年々、意味ある成長をとげ、今では世界中の人々に勇気と夢と生きる力を持つきっかけをつくる大会として、なくてはならないものになってきたと、第1回大会より参加させていただいている私自身感じています。

この大会にかかわり参加してくださったすべての皆様が、大会を通じ、国境を越え人々が生きてゆく中で抱えるさまざまな困難や問題を解決するのに、スポーツというものがどれだけできる事があるかを感じ、理解していただけたらと願っています。

9年目にして初めて現地参加することができず、ハート・オブ・ゴールド代表として本当に残念ではあります。毎年と同様、参加するランナーの皆様が元気にそれぞれの目標をもって、アンコールワットという素晴らしいロケーションを力に走りぬくことができるよう心より祈っています。

サンケイスポーツ読者特派員 石上 正志

ブノンベン市内で立ち寄った売店で、10才か11才位のストリートチルドレンと呼ばれている子供たち3人が、私達に「アイスクリーム、アイスクリーム」と物乞いする姿を初めて見て、涙が出るのをこらえ、物やお金を与えてよいのか迷いました。根本的な事が変わらない限り、何も解決しないと思います。ハート・オブ・ゴールドの活動は、その根本的な事を変える事が可能な組織だと、私は思います。時間がかかると思いますが、カンボジアの人達が希望と勇気を取り戻し、タ・プロムの根のように力強く根を伸ばしてほしいと思います。幼い子供たちが物乞いをする事のない国になるよう願っています。



青少年・指導者育成スポーツ祭での挨拶

ハート・オブ・ゴールド 副代表 ロレーン・モラー

皆様、本年度はコンポンチュナム州で開催されるこのスポーツの祭典において、青少年・指導者育成スポーツ祭の参加者として、あなた方を歓迎できることを大変うれしく思います。

この祭典は、まず現地の指導者となるべきカンボジアの教師たちにそれぞれの種目の指導方法を伝え、次に未来を担う子どもたちにスポーツの楽しさを理解してもらうことで、この国にスポーツを根付かせていくことを目的としています。また、同時に競技を行い、人々に見てもらうことで彼らに刺激を与え、スポーツは人々の心を一つにするということを、この州の人々に伝えたいと思います。

今回の催しが、健康維持の恩恵を知る機会を作っていくと共に、それだけにとどまらず、競技の中で要求される目的意識のある活動の中でリーダーシップが生まれ、カンボジアの若者たちがよりすばらしい技術を身に付け、自国でのスポーツ振興に寄与されること、これが私たちの願いです。

大きく強い櫻の木も小さな種から生まれてくるように、本日ここに集まってくれている若者たちが未来の指導者となってくれることを信じています。そのため、私たちハート・オブ・ゴールドはできる限りの種、つまり若者に水を与えることを思っています。

たとえ、その中で芽吹く種が一つ二つだけだったとしても、私たちの試みは成功だったといえるのです。なぜなら、その新芽がいずれ大木となり、他の種の傘となり、実や葉を落とし、新たにすばらしい新芽を生むことになるからです。

参加者の皆様、関係者の皆様、ここに集う全ての人々に感謝します。この祭典が皆様にとって有益なものになると、そして祭典終了後、スポーツの本質は協力と友好関係にあることを皆様が理解してくださることを願ってやみません。



今年度のYLTS祭に専門家としてご協力いただいた、現役ビーチバレー選手の田中姿子さんより

このような活動に参加させて頂きました事を心から感謝致します。初めての参加でしたが非常に刺激のある時間を過ごす事が出来ました。一人一人の力が大きな力になる事を感じた時間でした。学校に行けない子供達が教わっている生徒達を羨ましそうな目で見る姿を目の当たりにし、この国全体の生活レベルが上がり子供達全員がしっかりとした教育を受ける事が出来るまでになればいいと感じました。今回、そういう子供達と一緒に少しバレーをしましたが凄く楽しそうにバレーをする姿を見て、学校に行けなくても子供が遊ぶ楽しさを忘れている事なく、楽しいと感じてくれていれば良いのかな。と思ったのと同時に、これは国の教育関係が関わっているから無理な事かもしれませんのが、学校に行っている生徒達と同じ様に出来れば良いと感じました。そして、異国の方でボランティアとして沢山の日本人の方が参加をしていましたが、今回、初めて



参加して私が一番思った事は、自分達がこの活動をした達成感に満足するのではなく、カンボジアの人達がこのようなスポーツをする楽しさや面白さ、大人の人ならば子供達に教える楽しさや難しさを感じてくれる事が一番の成功なのではないかと思いました。他の専門家の先生方と違い私は現役の選手です。縁あってこのような活動に参加させて頂き、少しでも沢山の日本人にも知って欲しいと思いました。そのためにハート・オブ・ゴールドのマークをウォータータトゥーにして、試合や練習の時、人に目にふれる場に出る時などに付けたいと考えています。来年から始まる日本国内のビーチバレーの大会、海外のワールドツアーなどでも腕に貼って試合をしたいと思います。このような事しか出来ませんが、今後とも宜しくお願い致します。

更に黒くなり、電車の中でおじさん達に必ず見られる田中姿子より

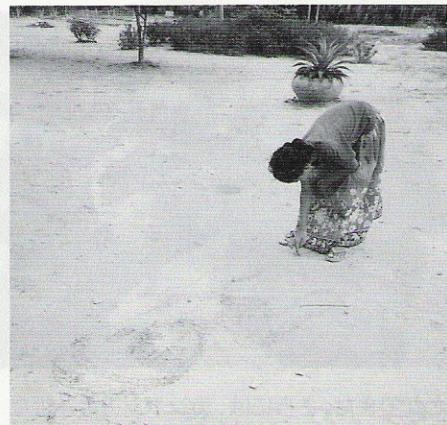
チャイルドケアセンターを訪問して

浜家 伸江



ハート・オブ・ゴールドのボランティアスタッフの浜家伸恵と申します。現在、岡山大学の大学院生で、カンボジアの尼さんについて文化人類学的な研究をしています。9月に約3週間、フィールドワークでカンボジアに行き、シェムリアップにもしばらく滞在しました。滞在中にチャイルドケアセンターに行ってきましたので、報告をします。

シェムリアップの中心部にあるにもかかわらず、大きな道から少し入ったところにあるため、街中とは思えない静かな環境で6人の女の子と1人の男の子が生活しています。門をくぐったら全員家の 中から飛び出してきて迎えてくれました。手を合わせて「こんにちは!」「こんにちは!」といってくれます。みんな女



の子らしくかわいらしい服を着ています。

ハート・オブ・ゴールドからの贈り物である手提げ袋や色鉛筆を渡すと、とっても喜んでくれました。日本のお父さんやお母さんに会ってみたい、とみんなが言っていました。実際に会うことは難しいので、今回は子どもたちから心をこめて手紙を書きました。

子どもたちはこのセンターから学校に通っていますが、今は学校が休みなので、センターにて勉強したり遊んだり、センター内で野菜や果物を栽培しています。この日は地面に女の子の絵を書いて遊んでいました。日本の女の子と同じような絵です。今いちばんやってみたい遊びはテニスだそうです。

子どもたちといろいろ話をしました。始めは恥ずかしそうにニコニコしているだけでしたが、次第に打ち解けてきて自分の名前を私のノートに書いてくれます。私はその名前を発音してみますが、私の発音が正しくなかったら、正しく発音できるまで何度も何度も繰り返して教えてくれます。正しくない発音が、面白く聞こえるようで、きゃっきゃっと笑います。その笑顔は届託がなく、とてもかわいらしい顔です。

彼女たちが笑うと周りの雰囲気がぱつと明るくなります。彼女たちはエイズ孤児だそうです。小学生低学年の子が、自分に両親がいないということを理解するのはどんな感じなのか、私は想像できません。どんなに寂しくて、心細いことでしょう。そのような環境で、子どもたち同士助け合いながら、明るく生活している姿に私の方が勇気づけられました。「いつも昼間は何してるの?」ときくと「勉強!!」と答えます。こちらの子どもたち、とくに女の子は、若いうちから家の手伝いをしたり、市場で働いたりするため、あるいは、学校が遠い場合は通うのが大変なため、あまり長く学校に通わないそうです。

子どもたちが大好きな勉強を続けられるように、遠い国に住む私たちも何か力になりたいと思いました。

【現在、男の子15名は、バッタンバンのセンターで生活している。兄弟もいるので、資金を集めて、皆一緒に住めるよう計画中。】

■西日本支部（武藤 勝行）

再生車椅子を送るプロジェクト

カンボジアに中古・再生車椅子を贈るようになって7年で49台になります。ここ4年はバリアフリー教育ネットワーク大阪の私学の小・中・高校がやっておられるアジアに中古車椅子を贈るプロジェクトと協力しHoGが輸送を担当、カンボジアに車椅子を送っております、今年は4台を手荷物で航空機に持込輸送。空港までは大阪在住の会員（西尾さん）の協力。12月1日関空から航空機持込に学生ボランティアの手荷物の重量までも指定して車椅子が持ち込める様に協力して頂きました。多くの人達の協力と力で継続してカンボジアに車椅子を送る事が出来ています。今後もカンボジアに車椅子を送るプロジェクトに協力下さい。来年は10回の記念大会の年です。さあ活動、行動開始です。皆さんのマンパワー宜しくお願ひします。

〈中古車椅子を提供〉川村義肢株式会社

<http://www.p-supply.co.jp/>リサイクル可能な車椅子を提供。

〈車椅子のメンテナンス〉

バリアフリー教育ネットワーク

<http://www.bfe.gr.jp/> 廃棄車いすのリサイクルという活動を通して広がった学校間のネットワーク。

■東日本支部（志澤 公一）

以下の活動に会員の方々がボランティアとして協力いただきました。

1. 【国際協力フェスティバル】

10月2日～3日、東京都日比谷公園内、182団体参加。開催中はチャリティー・マラソンもあった事から多くのランナーが会場に来られ、ハート・オブ・ゴールドのブースは大盛況でした。「今日は有森さん来てないの?」と聞かれる事もしばしば。最終日の3日（日）は、朝から大雨にも関わらず大盛況でした。遠方からこのフェスティバルを見に来る方も多く、ボランティア活動に注目する人口は

年毎に増加している事を肌で感じます。世界や社会がそれだけ民間力を必要としている証明です。携わる私たちは誇りを持って自身の活動を広げていきたいものです。

2. 【戸田マラソン】 11月21日、埼玉県戸田市教育委員会のご協力のもと、今年初めてのパネル展、グッズ販売

3. 【河口湖日刊スポーツマラソン】

11月28日、山梨・河口湖周回のAIMS（国際マラソン協会）、日本陸連公認コースで開催、今年もブースにてグッズ販売

■飯田クラブ（羽場 一雄）

昨年発足した飯田クラブは、以下の活動を繰り広げている。

1. りんごジュース販売による支援、申し込みは飯田クラブ（FAX 0265-27-6022）まで

2. 書き損じ葉書にて、葉書200枚の贈呈

3. カンボディアスポーツ復興基金として8万円を贈呈

現在、2005年4月14日に、有森代表参加のもと、1周年記念事業を計画中です。